

評価結果概要版



令和5年度

通所介護【デイサービス】

利用者調査とサービス項目を中心とした評価手法

法人名称	社会福祉法人洛和福祉会
事業所名称	通所生活介護事業所洛和デイセンター南麻布
事業所所在地	東京都港区南麻布4丁目6番1号北棟
事業所電話番号	03-6408-8677

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）	1)利用者中心であること 2)利用者の自立を支援する 3)人権の保護 4)寄り添うケアの提供 5)利用者満足度の向上

全体の評価講評

特に良いと思う点

・食事や活動など利用者が選択ができる機会を作り、主体的に選択をすることで意欲的に生活ができるようにしている

毎日の食事は肉料理と魚料理の2種類のメニューから選択ができ、前の週に週間献立表を配付し、当日選択したメニューを伝えてもらって提供している。午後の活動には2部屋用意して、決まったプログラムに参加する部屋と、自由にゆったり過ごす部屋に分け、当日の体調や気分で選べるようにしている。プログラムは前月に予定表を配付し、スポーツやゲーム、音楽を楽しむ会など他の利用者と一緒に過ごす企画にし、興味があれば利用日以外でも参加を可能にしている。利用者を選択する機会を提供し、意向を活かした支援を行っている。

・利用者一人ひとりが積極的に過ごせるように、特技などを把握して披露する機会を作り、達成感や満足感を感じられるようにしている

利用者一人ひとりに働きかけることを大切に、お誕生会ではインタビューを行い、夏祭りで太鼓を叩いていただき、運動会で応援団長をお願いするなど、利用者のできることを積極的に引き出している。特技を把握して忘年会で披露してもらい、また施設全体のフェスティバルでも舞台を作り利用者の参加を募った。参加した利用者は、おしゃれな衣装でシャンソンを、三味線の方を連れて小唄を、手助けを受けながらハーモニカの演奏などを披露された。利用者の得意なことを把握して活かせる場を作り、達成感や満足感を感じられるように支援を行っている。

・職員一人ひとりの「気づく力」を高め、防げる事故は生じさせないよう努めている

事業所ではヒヤリハットの提出により、職員一人ひとりの「気づく力」を高め、転倒や骨折等の事故予防や減少に継続して取り組んでいる。事業所では利用者の行動制限を極力少なくするように努め、ドアの開閉やエレベーターのロック等利用者の行動への拘束や制限は行わず、自由に動ける環境を基本として支援にあたっている。そのため、リスクを完全にゼロにすることは難しいが、ヒヤリハットの分析等から潜在的なリスクを明確にし、課題を抱える利用者にはインカムを活用して利用者状況や行動等を常に共有し、防げる事故は生じさせないよう努めている。

さらなる改善が望まれる点

・想定される様々なリスクを洗い出し、通所生活介護事業所としてさらに落とし込んだBCP策定への取り組みを期待している

事業所では事故防止や感染症対応等利用者の安全確保に向け、体制整備や充実・強化に努めている。大災害発生に備え法人で事業継続計画（BCP）が策定されているが、事業所では同一建物内に特養や老健等を併設する複合型福祉

施設であるため、施設全体としての環境や実状等を考慮してさらに落とし込んだ検討や見直しが行われている。施設全体に加え、通所生活介護事業所として送迎時や避難経路・場所等想定される様々な事態やリスクを洗い出し、より具体的で有効性や実効性のあるBCP策定に向け、取り組みを進められることを期待している。

・ICTによる業務の効率化をさらに進め、また記録手順の確認により記録の確実化を図られることを期待したい、

事業所では記録のICT化を進め、利用者の状況はサーバー上の経過記録に記載している。しかし当日の利用者に合わせて来所順に記載し、また随時確認を行うにあたり、バイタルチェック表等いくつかの書類は手書きで記録し、後でパソコンに入力する体制となっており、完全には記録の一元化に至っていない。またインカムでの連絡事項を経過記録に記載して情報共有を図る手順が徹底されず、記録されないことがある。事業所の業務に合わせたICT化による効率化をさらに進めるとともに、記録手順の確認により記録の確実化を図られることを期待したい。

・

事業者が特に力を入れている取り組み

・見学時には活動への参加を勧め、事業所の雰囲気を感じてもらえるよう努めている

事業所内の見学も再開し、なるべく事前に日程等の調整を行って十分な時間を設けるようにし、管理者や生活相談員が豊富なイベントや活動、メイン料理が選べる食事等事業所の特色や1日の流れ等パンフレットを活用して分かりやすく丁寧に説明を行っている。また毎日午後2時から行っている各レクリエーションやイベント・活動等への参加を勧め、体験を通して事業所の環境や魅力、雰囲気等を直接感じてもらうよう努めている。利用者状況等に応じて送迎も行っているが、見学時には送迎から体験したいとの希望も多く、ほぼ9割の方に送迎を行っている。

・職員による不適切ケアや虐待がないよう振返りや研修の実施・充実を図っている

事業所ではサービス提供時の基本的な姿勢として「利用者中心であること」や「人権の尊重」等を掲げ、利用者の気持ちや誇り・尊厳等を傷つけるような職員の不適切な言動や虐待等がないよう細心の注意を払って支援に臨んでいる。ヒヤリハット報告書に「不適切ケア」の項目を設け、「不適切ケア報告書」が上がってきた場合には、直ちに朝礼や夕礼等で積極的な振返りや検証を行っている。またミーティングでも日常的なケアを返る機会を設け、虐待やスピーチロック等の防止に取り組んでいる。研修も実施・充実させ、職員の理解や意識向上を図っている。

・イベント等の充実を図り、事前にチラシ等で知らせ事後に内容をまとめて配布している

以前は毎日2種類のプログラムを用意して、好みの方へ参加するようにしていたが、利用者の様子や参加状況等からプログラム内容を精査し、現在は1種類のプログラムにして、利用者は参加するか自由にゆっくり過ごすかを選べるようにしている。イベントや行事について予定を配付し、チラシ等を掲示して積極的に参加を促している。イベント後は写真等をまとめてお便りにし、家族に配付して利用者の楽しそうな表情を伝えている。コロナが5類に移行して散歩等外出活動を再開しており、3月にはお花見週間を企画し出かけることを予定している。

利用者調査結果

有効回答者数/利用者総数

52/118

はい どちらともいえない いいえ 無回答・非該当

1. 利用時の過ごし方は、個人のペースに合っているか	63.0%	25.0%	7.0%	いはいえ：3.0%
2. 日常生活に必要な介助を受けているか	78.0%	7.0%	5.0%	7.0%
3. 利用中に興味・関心が持てる行事や活動があるか	44.0%	38.0%	5.0%	11.0%
4. 個別の計画に基づいた事業所での活動・機能訓練（体操や運動など）は、在宅生活の継続に役立つか	75.0%	15.0%	7.0%	いはいえ：1.0%
5. 職員から適切な情報提供・アドバイスを受けているか	55.0%	30.0%	9.0%	いはいえ：3.0%
6. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	80.0%	11.0%	5.0%	いはいえ：1.0%
7. 職員の接遇・態度は適切か	84.0%	9.0%	5.0%	いはいえ：0.0%
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	75.0%	5.0%	19.0%	いはいえ：0.0%
9. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	55.0%	15.0%	28.0%	いはいえ：0.0%
10. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	82.0%	11.0%	5.0%	いはいえ：0.0%
11. 利用者のプライバシーは守られているか	78.0%	11.0%	9.0%	いはいえ：0.0%
12. 個別の計画作成時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	63.0%	13.0%	21.0%	いはいえ：1.0%
13. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	63.0%	19.0%	17.0%	いはいえ：0.0%
14. 利用者の不満や要望は対応されているか	69.0%	9.0%	17.0%	いはいえ：3.0%
15. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	38.0%	28.0%	32.0%	いはいえ：0.0%